

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
360	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Baseline alcohol consumption, type of alcoholic beverage and risk of colorectal cancer in the European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition-Norfolk study. アルコール消費量、アルコール飲料別の大腸がんのリスク the European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition-Norfolk study より	
<b>執筆者</b>	
Park JY, Mitrou PN, Dahm CC, Luben RN, Wareham NJ, Khaw KT, Rodwell SA	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Cancer Epidemiol. 2009 Nov;33(5):347-54. Epub 2009 Nov 22.	
<b>キーワード</b>	
飲酒、大腸がん、アルコール飲料	
<b>要旨</b>	
<b>目的：</b> 飲酒量やアルコール飲料の種類と全大腸がんや部位別大腸がんのリスクとの関連を検討する。	
<b>方法：</b> 対象は一般地域住民 24,244 人を対象とした前向き研究 the European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition-Norfolk study の参加者である。11 年間の追跡期間中に 407 人の大腸がんを観察した。コックス比例ハザードモデルを用いて、大腸がんのハザード比を算出した。アルコール飲料の種類についての情報はベースライン調査時の質問票によって収集した。	
<b>結果：</b> 飲酒は大腸がんのリスクと有意な関連を認めなかった。また、アルコール飲料の種類別に検討するとビール、シェリー、醸造酒は大腸がんのリスクと有意な関連を認めなかった。一日あたり 1 単位以上のワイン飲酒は大腸がんのリスクと負の関連を認めた (ハザード比; : 0.61, 95%信頼区間 : 0.40-0.94)。これらの結果は性別による違いを認めず、ベースライン調査から 3 年以内の大腸がん発症症例を除いても同様の結果であった。	
<b>結論：</b> 今回の検討では中等量の飲酒では大腸がんリスクとの関連を認めなかった。	